

施策の進捗管理シート

令和 7 年度

総合 体系 計画	分野	5	第 5 章	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	施策統括課	こども政策課
	施策No.	1	施策名	安心して子育てできる環境の充実	課長名 (施策統括責任)	岩瀬 さやか
	関係課	緑化推進課 健康づくり課 こども政策課 こども家庭課 保育幼稚園課				

1. 施策の目標

めざす姿 (成果目標)	子育て世代が、大きな不安や負担を感じることなく子育てに誇りと喜びを感じ、これから子どもを“うみ育てたい”と思っている人が、出産や育児に不安を感じていない。
取組方針	子どもだけでなく親も自らの社会性や人間性を高め、子どもと一緒に成長できるよう、家庭、地域、企業等と連携したきめ細やかな子育て環境の充実に取り組みます。

2. 施策の意図と成果指標

対象 (誰、何を対象としているのか) *人や自然資源等	子育て世代					
意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の親が子育てに大きな不安や負担を感じることがない。 ・子どもを生みたいと思う人が安心して子どもをうみ育てることができる。 					
成果指標 A						単位
子育てに大きな不安や負担を感じている市民の割合						%
H30 基準	R1 計画 実績	R2 計画 実績	R3 計画 実績	R4 計画 実績	R5 計画 実績	R6 目標 実績
44.5	44.0 40.6	43.0 37.7	37.0 43.7	36.0 47.1	35.0 42.4	34.0 43.3
成果指標 B						単位
合計特殊出生率						人
H30 基準	R1 計画 実績	R2 計画 実績	R3 計画 実績	R4 計画 実績	R5 計画 実績	R6 目標 実績
1.54	1.56 1.52	1.57 1.49	1.58 1.50	1.59 1.39	1.61 1.45	1.62 1.34

3. 市民意向調査結果

施策の重要度	前回	今回	
重要である	54.1%	52.8%	↓
ある程度重要である	36.1%	39.0%	↑
あまり重要ではない	3.3%	3.6%	↑
重要ではない	0.4%	0.2%	↓
順位	8/36位	10/36位	↓

施策の満足度	前回	今回	
満足している	3.8%	5.2%	↑
どちらかといえば満足	47.6%	55.5%	↑
どちらかといえば不満	25.0%	20.9%	↓
不満である	4.9%	3.7%	↓
順位	10/36位	9/36位	↑

4. これまでの取組・成果

(子育てと仕事の両立のための支援／子育て家庭の負担軽減)

- ・市内の小学校で放課後児童クラブを実施し、放課後の適切な遊び場と生活の場を与え、児童の健全な育成を図った。また、段階的に小学4年生以上の受入れを進め、令和6年度時点で23校区において受入れを行っている。そのほか、待機児童解消のため、近隣保育施設への業務委託を行ったり、新たな実施場所を確保するなど受け入れ拡大に努めてきたが、一部の校区では供給が追いつかず令和6年度は43人の待機が発生している。
- ・保護者が病中・病気回復期にある子どもを自宅で世話することが難しい場合に、小児科医院に併設した保育室で一時的に保育を行う病児・病後児保育事業を実施し、保護者の負担軽減を図った。平成27年度～令和6年度で平均879人/年の利用があった。
- ・市公式LINEを利用して子育て支援情報のプッシュ型配信を行い、子育て世代の必要とする情報をタイムリーに届ける情報発信を行った。令和6年度末時点で2,256人が子育て情報の受信設定を行っている。また、令和6年度から、各種申込等をオンラインで予約できるようにするなど共働き家庭や時間のない保護者が利用しやすい環境を作った。

(子育て家庭の負担軽減)

- ・こどもの居場所づくりを推進するため、モデル事業の実施やコーディネーターの設置等を行った。令和6年度末時点で27箇所のこどもの居場所が市内で活動し、子どもや子育て世帯と地域との交流の場となっている。

(子育て環境の整備)

- ・児童に健全な遊びを提供するための環境づくりと、心身の健康を増進し情操を育てるための環境づくりを目的として児童館の運営を行った。令和6年度は5館合計で延べ64,573人が来館した。

5. 指標の達成状況に関する分析

市民意向調査における「子育てに大きな不安や負担を感じている市民の割合」については、R1,R2の実績において目標を達成したため、R3から目標値を見直しているが、R3以降は実績値が目標値に達していない状況が続いている。R2以降に流行した新型コロナウイルス感染症の拡大や共働き家庭などにおける放課後等の児童の居場所についての不安、物価高騰による負担増などが背景にあると思われる。

合計特殊出生率については、実績値が目標値を下回る状況が続いている。また、第2次計画期間中の全年度において、全国の数値よりは高いものの県の数値よりは低くなっている。全国的に出生数が減少しているなかで、佐賀市の数値も細かな上下はありつつも減少傾向にあるといえる。

6. 今後の方向性（第3次佐賀市総合計画への反映など）

- ・デジタル社会が進む中、また共働き世帯が高い割合で推移する中でさらなる子育てDXを推進する。市民が効率的に行政手続き等を進めることができることで、保護者が子どもと触れ合う時間を作り出す。
- ・放課後児童クラブのニーズは、一定期間は高い水準で保たれることが見込まれるため、施設整備とともに、適正な人材配置を行うことで、保護者が安心して仕事と子育てが両立できる環境整備を行っていく。
- ・こどもの居場所の充足を推進し、家庭や学校とともに、子どもにとって居心地のいい安心して過ごせる場所を生み出すことで、地域との交流などを通し全てのこどもの健やかな成長や幸せな状態（ウェルビーイング）の向上に資することを目指し、誰一人取り残さず、抜け落ちることのない社会を作り出す。